



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー

手をつなごう

まずは話そう

小川町下里分校散策と折原いこい館クレープカフェ

「今年はともかく会って、いっぱい話そう」をテーマにしています。

4 月 12 日に下里分校カフェで、有機野菜のランチと散策を楽しみました。はじめてお顔を会わす方もいましたが、和気あいあいとおしゃべりができました。近くの槻川沿いの歩道にはイチリンソウ ニリンソウ マムシグサなどの自生地があり、新緑の木々の中、存分に楽しむことができました。

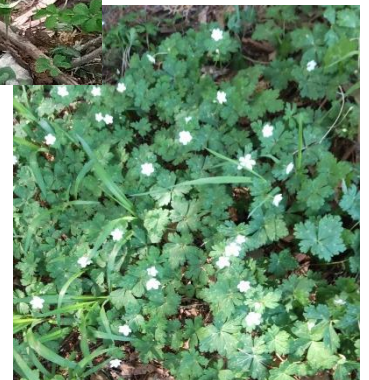
参加者された方々は、造園業、有機農家、図書館司書、介護施設に従事されている方などいろいろな視点からのお話は、大変興味深く、考えさせられることがいっぱいでした。普段感じていることなど、言葉にすることで色々なことが見えてきます。話しっぱなしのようで、どこかで繋がっていくことがあります。

皆さん共通の問題意識は、この国、この社会はこれからどうなっていくの？紛争の拡大、分断、格差、排外の流れ、食料の安全保障、地域の少子高齢化など不安なことだらけ。そんな中で私たちにできることを考え、少しでも形にできればといった思いは共通です。これからも会って話そう！の機会を多く持っていきたいと思います。

有機野菜ランチのお味は最高でした。色とりどりの野菜のおいしさを堪能しました。ああ、しあわせ！！



鎌首を持ち上げた
ようなマムシ草



可憐なイチリンソウ

美味しく、楽しく話そう！

折原いこい館 クレープカフェ

八高線の折原駅から少し先の位置にある波羅比門神社の手前に、ちょっと長閑な佇まいの折原いこい館があります。

今回は、開催まで時間があまり無かった事もあり

参加者は 4 名と少なめでした。ただ話をするだけでは無く、楽しみながら活動したい！と、いう事で簡単に作りながら話し、食べながら話そうという企画でした。

館内はホールと和室、調理室があり、冷蔵庫にオーブンレンジも備え、調理台 2 台は程良い広さ。ホットプレートは持ち込みで、クレープ生地を作ってみなで交代しながら焼き、具材は皿に並べてテーブルへ。飲み物は紅茶など。なかでもマヌカハニージンジャーのハーブティーが飛び切りおいしかった。具材はハムやスライスチーズ、モッツアレラ、バナナにイチゴジャム、生クリーム、各自好きなものを巻いて頂く法式。今日はスイーツ系よりもセイボリー系のクレープが好評で、こんな軽食いいね！と盛り上がり。

そして食べながら、寄居の町長選、町議会議員の補欠選挙、そして各地域ネットの話など聞くことが出来ました。

10 時半開始でしたが、片付けを含め予定時間ぎりぎりの 14 時まで楽しく過ごしました。時にはこんな企画、好いものです、皆さま次回はぜひご参加ください！
Y. M.



まずは生地づくり



材料チェック

介護保険制度と自事業の行末



林に囲まれたあかつき

介護保険制度は平成12年の開始以降、高齢化の進展や介護ニーズの多様化に対応するため何度も改正されて、利用者や家族にとって理解しにくい制度となっています。

その結果、次のような課題が指摘されます。

- ・利用者や家族が自分の必要なサービスを選びにくい
- ・ケアマネジャーへの依存度が高まる
- ・事業者側の事務負担が増える
- ・地域によってサービスの利用しやすさに差が生じる

自事業所も平成11年3月にサービスを開始し、翌年より介護保険の事業者として利用者にサービスを提供してきました。利用者のニーズと介護保険制度の改正に沿って、有限会社という小規模な法人ながら、9種類のサービス(グループホーム、認知症通所、小規模多機能、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、サ高住、地域密着型通所、定期巡回随時対応型訪問介護看護)を提供し、利用者ニーズに沿って最後までサービスを提供しています。

事業開始から26年が経過し、これらを支えてくれた職員達が高齢化し、若い職員の採用が急務となっています。しかし、全国的な人材不足と物価高に伴う最低賃金の上昇で、介護業界には人材が集まりません。自社も数年前に紹介会社を使い人材採用したところ、紹介料で赤字決算に追い込まれました。

以後、ハローワークや職員や知人の紹介等で乗り切ろうとしていますが、やはり人材が集まりません。又、多種類のサービスを提供しているので、利用者は継続してご利用いただけるメリットの反面、事務が複雑になり後継者への引継ぎが難しくなっています。

これらを解決するには、国は当社のような小規模事業所の集中化を考えています。大規模化すること

により、人材の確保や介護ロボット等の機械化の導入による人材の省力化等を考えているようです。

記録の ICT 化は3年前に対応済みですが、介護ロボットや見守りセンサー等の導入は介護理念や経済的に受け入れられません。人件費は上昇し続け、経営が難しくなるばかり、しかしこれ以上の介護保険の利用料アップは高齢者にとって難しいとしか言いようがありません。

この国の方針で、選べる介護保険からスタートしたはずが、小さな事業者は捨てられる時代になってしまいました。

地域で暮らす利用者の方々を最後まで地域で支える理念を後継者に引き継げるよう、これからが正念場かもしれません。

グループホームあかつき
代表 堀沢暁子

なんと！ 寄居町 高齢化率 35%

いきなりですが、夫 後期高齢者、私 前期高齢者の高齢者世帯です。

なにしろ初めての経験(笑)。今も、そして先々も不安な事がいろいろある。で、ちょっと寄居町の数字を調べてみました。

人口3万人に対して65歳以上の高齢者は1万1千人、高齢化率 35%。ああやはり、全国平均の29.3%を超えてた。ごくたまに街に行くと若い人や子供が沢山いてあら～って思う訳だわ。

そして世帯別では、町全体 15394 世帯の 27% の 4185 世帯、ざっくり 4 軒に一軒は高齢者世帯だ！(高齢単身者世帯 2188 世帯、高齢夫婦世帯 1997 世帯)。赤信号みんなで渡れば怖くない(などとふざけている場合ではありません。)でも不安や不便、もやもや等々、共感し合える人の数は少なくないはず。

そこでです！まちネットでは居場所作り、会える場を作っています。5 月には小川町の下里分校跡のカフェで有機野菜のランチとカタクリ自生地の散策、7

月は折原いこい館でホットプレートでクレープを焼いて美味しい楽しい集い。

寄居町は都会に比べて地縁血縁の濃い所だと思うけど、もちろんそれも良い事、だけれど、それよりも少し周辺のふわっとした、でもほっこりする関係を結べる機会、日頃の不安不満もやもやを聞き合えたらイイなという訳です。これからも企画しますので、参加、企画の提案などお待ちしております！

最後に AI に問いかけた「自治体の高齢化が進むとどうなる？」です。

自治体の収入が減る、医療介護費が増える、行政サービスが低下して若い世代の転入が減る、労働力不足、消費減少による地域経済の衰退、生活インフラ(買い物や交通機関)の維持困難、担い手不足によるコミュニティの崩壊。これらに対して個人としての自衛策は？地域や行政に対して何か出来る？どうしてほしい？ こんな話も出来たらいいなあ。 KY



～共に生きる社会とは～

日本で暮らす外国人

7月4日越谷で開催された越谷ネット、県ネット共催の学習会に参加した。

講師：NPO 法人移住者と連帯するネットワーク共同代表理事、国土館大学教員鈴木江里子氏

年々増え続けている外国人労働者、移民に対し、外国人排斥の流れが高まっている。現実には、県内でのクルド人差別の報道は何回も繰り返されている。私の住む県北の田舎町では、報道されているような騒ぎはないが、外国人が増えている実感はある。

学習会では、基本的な移民とは？在留資格の分類など専門的な資料が詳細に提供された。しかし、この分類等理解するにはかなりたいへん。はっきり言えば難しかった。数字を読み解き理解するには距離があるが、およその流れからいま日本社会の現在地

は感じられた。国際結婚が増加する中で、ダブルと呼ばれる日本国籍の子どもの増加は著しい。日本で生まれる子どもの17.9人に1人が外国ルーツの子どものといった数字に驚く。



国の外国人政策

深刻な労働不足への対応策として、外国人材の受け入れを2029年3月までに123万人とする閣議決定。外国人の受け入れ・秩序ある共生のための総合的対応策を策定。(2026年1月)

一見それなりの対応策を打ち出しているようにみえるが、その中には、外国人の権利・ちがいの視点が欠如しているといった指摘がある。今や外国人労働者抜きで日本の産業、生産現場、サービス業、介護現場など幅広い分野での労働は成り立たなくなっている。外国人労働者は、企業にとっては、経営が厳しくなればいち早く雇用中止とできる、有効な安全弁となっている。

外国人は治安悪化の原因なのか？

そんな現状下で、なぜこのような外国人排斥の流れが強まるのか。昨年5月、政府は「ルールを守らない外国人により国民の安心・安全が脅かされている」として不法滞在者0プランを打ち出している。国の治安に関する特別世論調査によれば、治安が悪化していると感じる人は全体で10%ほどの結果である。調査によれば、治安の悪化の原因として一番に上げられていることは、「地域社会の連帯意識が希薄となったから」が54.9%、続いて「景気が悪くなったから」47.4%、「様々な情報が氾濫し、それが容易に手に入るようになったから」44.7%となっている。

排外主義を掲げている政党や、政治家の主張とは大きく異なる。国民の生活が苦しくなったのは、外国人のせいなのか。いや政治の無策を移民や外国人に向けることが、簡単な逃げ道のように見える。

時々強調されてる外国人が優遇されてるといった質問に厚生労働省が応えている。

・日本人よりも外国人が生活保護の需給が優遇されてる・外国人生活保護受給者が年々増加・生活保護世帯の3分の1が外国人世帯かなど、これらの問い

にははっきりと否定し、そのような事実はないと回答している。

外国ルーツの子どもたちの教育

不就学、低い学業成績、低い高校進学率・高い中退率は再生産されていく。実生活での不平等な壁は大きい。言葉の壁、制度の壁、心の壁(差別意識から生まれる)不利な社会生活下での経済的な各差は極めて大きい。

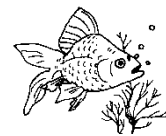
私が子ども食堂に関わって4年になる。その中で外国ルーツの子どもたちが何人かいる。4人兄弟の末っ子の彼は、人懐こい好奇心旺盛な積極的な少年だが、一番上の兄さんは、中学卒業後働いている。ともに家族を助けていくための働き手となっているという。言葉にはしないが、様々なところで差別、偏見を感じながら育っている。データだけではない、現実がここにあると感じている。

学習会を終えて、私たちの意識だけでは解決できない大きな壁があること。そしてその壁を越えていくためには、様々な社会的支援、制度、政治が大きくかわっていることを思い知る。

共生を考えるための2つの視点があげられている。

- ・文化的差異(多様性)の承認→違いの認識
- ・共に生きていくために対等な関係の構築→おなじ

私たち一人一人が声を上げ、多文化共生社会は、面白い、楽しい、より豊かになることを小さなところから実践していくことが大切と感じた。同時に政治で解決できることを積極的に働きかけていく必要があると思う。



大北秀子

編集後記

高市政権下で強行する皇室典範改正法案、国旗損壊罪法案、再審法改正案等々が一気に可決されてしまった。報道でも警鐘が鳴らされ続けてきたが、数の暴力で国会は機能マヒとなっている。国民の多くがおかしいと声を上げ、世論調査でも異論が噴出していたにもかかわらず、国民感情と乖離したまま突っ走っている。誰のための法案なのか。嘆いても変わらない。ならば次の選挙へ向けて、動いていくしかない。